

安全データシート(SDS)

KBD UV クリーン・エコ改良

作成日 2004年07月20日

改訂日 2013年11月06日

1.化学物質等及び会社情報

製品名	KBD UV クリーン・エコ改良
製品コード	S-1331
会社名	三成化工株式会社
住所	大阪府大阪市城東区関目 4-11-38
電話番号	06-6932-3531
緊急時の電話番号	090-1133-1763
FAX 番号	06-6932-3830
メールアドレス	sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp
推奨用途及び使用上の制限	印刷インキの洗浄液

2.危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類 可燃性・引火性ガス 可燃性・引火性エアゾール 支燃性・酸化性ガス 高圧ガス 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体 自然発火性固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 酸化性液体 酸化性固体 有機過酸化物 金属腐食性物質	分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 区分4 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:ガス) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:粉じん) 急性毒性(吸入:ミスト) 皮膚腐食性・刺激性	区分5 区分5 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 区分3

環境に対する有害性	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2B
	呼吸器感作性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分外
	特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分 2 臓器
	吸引性呼吸器有害性	区分 1
	水生環境急性有害性	区分 2
	水生環境慢性有害性	区分 2

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性液体
 飲み込むと有害のおそれ(経口)
 皮膚に接触すると有害のおそれ(経皮)
 軽度の皮膚刺激
 眼刺激
 長期又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 水生生物に毒性

注意書き

長期的影響により水生生物に有害

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
 ー禁煙
 容器を密閉しておくこと。
 静電的に敏感な物質を積みなおす場合は、容器を接地すること、アースをとること。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 適切な個人用保護具を使用すること。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

【応急措置】

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。火災の場合には適切な消火方法をとること。

飲み込んだ場合、口をすすぐこと。

飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露した場合、医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

データなし

国・地域情報

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名	グリコールエーテル系溶剤	石油系炭化水素(鉱油)
化学式	非公開	特定できない
CAS 番号	非公開	非公開
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	非公開	非公開
含有量	90～100%	5%以下

4.応急措置

吸入した場合

医師に連絡すること。

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合	眼の刺激が続く場合は医師の診断、手当てを受けること。 口をすすぐこと。 医師に連絡すること。
予想される急性症状及び 遅発性症状	データなし
最も重要な兆候及び症状	データなし
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別注意事項	ばく露の程度によっては、定期健診が必要である。

5.火災時の措置

消火剤	水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	棒状注水 加熱により容器が爆発するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項 回収・中和	環境中に放出してはならない。 不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、 化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。
局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 消防法の規制に従う。

	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込まないこと。 皮膚と接触しないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 眼に入れないこと。 『10. 安定性及び反応性』を参照。
接触回避	
保管	
技術的対策	消防法の規制に従う。
混触危険物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管条件	消防法の規制に従う。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。
容器包装材料	データなし

8.ばく露防止及び保護措置

化学名	グリコールエーテル系溶剤	石油系炭化水素(鉱油)
管理濃度	未設定	未設定
許容濃度 日本産業衛生学会-TWA	未設定	鉱油ミストとして 3mg / m ³
許容濃度 ACGIH-TWA	未設定	鉱油ミストとして 5mg / m ³
設備対策	防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。	
保護具		
呼吸器の保護具	状況に応じて有機ガス用防毒マスクを着用すること。 (推奨製品：直結式小型防毒マスク GM31 と吸収缶を使用)	
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。	
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。	
皮膚及び身体の保護具	状況に応じて保護長靴、保護腹、保護前掛けを着用すること。	
衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。	

9.物理的及び化学的性質

物理的状态	
形状	液体
色	無色透明
臭い	特徴臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	150～ 180℃
引火点	67℃以上
爆発範囲	データなし

蒸気圧	データなし
蒸気密度 (空気 = 1)	>1
比重 (密度)	0.920
溶解度	水に不溶
オクタール・水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
臭いのしきい (閾) 値	データなし
蒸発速度 (酢酸ブチル 1)	データなし
燃焼性(固体、ガス)	該当しない
粘度	データなし

10.安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	加熱、火源、空気
混触危険物質	強酸化剤、強還元性物質
危険有害な分解生成物	データなし

11.有害性情報

化学名	グリコールエーテル系溶剤	石油系炭化水素(鉱油)
急性毒性 (経口)	区分 5	分類できない
急性毒性 (経皮)	区分 5	分類できない
急性毒性 (吸入: ガス)	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入: 粉じん)	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入: ミスト)	分類できない	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分外	区分 2
眼に対する重篤な損傷・ 眼刺激性	区分 2B	分類できない
呼吸器感作性	区分外	分類できない
皮膚感作性	区分外	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない
発がん性	分類できない	分類できない
生殖毒性	区分外	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	分類できない	区分 3 気道刺激性 麻酔作用
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない	区分 2 臓器
吸引性呼吸器有害性	分類できない	区分 1

12.環境影響情報

化学名	グリコールエーテル系溶剤	石油系炭化水素(鉱油)
-----	--------------	-------------

水生環境急性有害性	区分外	区分 1
水生環境慢性有害性	区分外	区分 1

13.廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
汚染容器及び包装	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14.輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	IMO の規定に従う。
航空規制情報	ICAO・IATA の規定に従う。
国内規制	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。 重量物を上積みしない。
国連番号	1993
緊急時応急措置指針番号	128

15.適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) 鉱油(政令番号 第 168 号)
有機則・特化則・PRTR 法	非該当
海洋汚染防止法	有害液体物質(Z 類物質) (施行令別表第 1)
消防法	第 4 類 第 2 石油類 危険等級Ⅲ 非水溶性液体 (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1)

16.その他の情報

参考文献	GHS 混合物分類判定システム GHS 改訂 2 版対応版
記載内容の取扱い	記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。 含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。 注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策の実施にご配慮をお願いいたします。

また、記載内容は情報提供であってその内容を保証するものではありませんので、重要な決定をされる場合は出典等をよく検討されるか試験によって確かめられることをお勧めします。